

文学館だより

令和元年10月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高

靴屋あり靴をつくろふ鍛冶屋ありくろがねを打つ秋の日の街

明治42年中央新聞社（京橋山城町）の社会部記者をしていた頃の作。24歳。『別離』収録。

ふるさと坪谷にて 第69回 牧水祭 執り行う

毎年牧水の祥月命日に生家前の牧水喜志子夫婦歌碑での歌碑祭、また牧水を偲ぶ会を開催して下さり、遺族の一人として心より御礼申し上げます。

昭和三年の本日亡くなった牧水は令和元年の今年、没後九十一年を迎えました。

まもなく百年になろうとする牧水が、今や、文学界のみならず、オペラ、アニメ、漫画など、新しい分野にまで進出していることは、このようにふるさとの皆さまが、牧水を大切に下さっているお力によるものと思っております。

この度は、お伺いできず残念ですが、第二部の牧水を偲ぶ会での児童のうた斉唱、また伊藤一彦、中村佳文両先生の対談など拝聴できず心残りですが、御盛會を御祈り申し上げて一言御礼まで申し上げます。 沼津市若山牧水記念館館長 榎本 簗子

牧水祭開催にあたり榎本簗子（えのもとむらこ）さんから上記のメッセージをいただきました。皆さんご承知のとおり、榎本簗子さんは牧水長男旅人（たびと）のご長女でいらっしゃいます。

9月17日（火）は43歳で亡くなった牧水先生の命日でした。没後91年を迎えました。ふるさと坪谷では今年も変わらず『牧水祭』が執り行われました。今年は平日ということもあり、例年より少ない参加人数ではありましたが、それでも100名を超える牧水先生をこよなく愛する方々にお集まりいただきました。

対談は伊藤一彦先生と中村佳文先生（宮崎大学教育学部教授）による『牧水短歌の力動をよむ』。中村先生は大学教授であり、牧水研究会会員でもあり、短歌会「心の花」所属とあり、文学館には欠かせないおひとりです。以前から楽しみにしていた内容だけに、紙面の許す限り皆さんにお伝えできればと思います。



伊藤一彦先生

力動＝ダイナミック

牧水短歌の力強さとは何かを読み解いていきたい、と前置きされ、話は始まりました。牧水短歌の新たな気づき、奥深さを知る機会となり、牧水先生への思いが確実に大きくなった内容でした。



中村佳文先生

1 沁む・誦し・ひびき — (Dynamic＝力動)

- ・身体性 体の響きは人間の力強さ・動きを表現 → 牧水はこれを言葉の響きとして表現
- ・牧水のそばにいた喜志子が、一番、響き・力強さを感じていたに違いない

2 名歌 — 五七調の力動

- ・動くこと（止まること）＝ 力を満たす ＝ 力強さ ＝ 力動・・・五七調の魅力
- ・ゆっくり読める ＝ 結句の発声 ＝ 四句で切って結句がクローズアップ・・・五七調の韻律

行き行くと冬日の原に / たらとまり耳とすませば / 日の光きこゆ (くろ土)

※日の光の音を聞く感性に注目 ※「たらとまり」ではない「たって」「とまる」2語扱いに注目

3 「聲」と「耳」 — 牧水の身体性

- ・「声」の旧字体「聲」・・・聞く側を意識して声を発する → 聴覚を研ぎ澄ます ＝ 魅力

4 山と海と — 坪谷に響く浸みる瀬の音

- ・水の音をキャッチする ＝ 水の存在を知る
 - ・音を求める ＝ 自分の位置を知る ＝ 我に気づいていく
- 牧水の作歌人生には生家で聞いた坪谷川の音が残っている

そして、もう一つ。今年も地元の子どもたちが式典に花を添えてくれました。牧水のうたを斉唱してくれたのは、日向市立東郷学園 4 年生の皆さんでした。今年初参加でしたが、堂々と立派に務めてくれました。

この参加をきっかけに、これまで以上に牧水先生の行事が盛んになることを願っています。



山口愛心さん(左)と黒田美侑さん(右)

歌碑祭の巫女を務めてくれたのは、同じく東郷学園 9 年生の山口愛心(あこ)さんと黒田美侑(みゆう)さんでした。

「私は牧水先生の生誕地である坪谷で生まれ、育ちました。坪谷小では毎日、牧水先生の短歌を朗詠し、短歌作りをしてきました。今回巫女となり、献酒をさせていただき、牧水先生の偉大さを改めて感じる事ができました。」(山口愛心さん)

「私は初めて巫女をしてとても緊張しました。やり方も丁寧に教えていただきました。牧水先生の母校出身としての大役を果たせました。こんなに貴重な経験をさせていただいて、坪谷出身であることを誇りに思います。」(黒田美侑さん)



東郷学園 4 年生 18 名の皆さん

来年は、第 70 回です。さあ、来年に向けて始動です。

企画展のお知らせ

10月 第24回若山牧水賞発表に先立ち、歴代受賞者が一堂に並びます。

1月 第24回若山牧水賞授賞式に合わせ、受賞歌人、受賞歌集、直筆原稿を紹介します。

消費税増税に伴い料金改訂のお知らせ

消費税率引き上げに伴い、入館料およびその他の料金が改訂となりましたので、お知らせいたします。ご理解ご協力よろしくお願いいたします。

入館料	高校生以上	310 円	高校生以上団体(20 名以上)	250 円	10 円値上げ
	小・中学生	100 円	小・中学生団体(20 名以上)	80 円	現行のまま

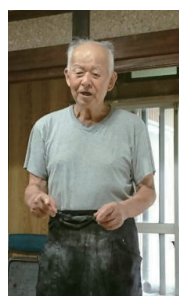
(日向市若山牧水記念施設条例改正に基づく)

書 籍 本体価格 + 消費税 10 % (商品によっては現行価格のままのものもあります)

色紙、短冊、絵はがき、一筆箋などのオリジナル商品は現行価格のままです。

寄り道

9月26日、ふと思い立ち高千穂へ・・・



その日は久しぶりに特段予定のない休日でした。以前から気になっていた高千穂のそば屋に掛かっているという牧水先生の掛け軸を見に行こう、とふと思い立ち目的地に向かいました。

牧水先生の掛け軸は確かに今も掛かっていました。旧制延岡中出身のお知り合いから譲り受けたと話してくださいました。私の目的はこれで達成したのですが・・・店主と話しているうちに・・・そばに対するこだわり、そば屋を始めるきっかけなど信念を持って話される店主のお人柄にすっかり魅了されてしまいました。

とどろとどろ落ら来る瀧を仰ぎつつ心さむけくなりにけるかも

(大正 7 年 6 月那智勝浦で詠んだ歌 『くろ土』収録)

神代庵 十割手打ちそば・天然うなぎ

高千穂町大字三田井 742

店主 金丸邦彦さん 86 歳

